

VI. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善を進めていく際には、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みについて情報収集する必要があります。その上で、必要な事項を、京都大学全体や各部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会を作り、そこからコミュニティ・ネットワーク形成を図るべく、「あさがおメーリングリスト」「大学教育研究フォーラム」の2つの仕組みを作っています。

1. あさがおメーリングリスト

あさがおメーリングリストは、本センターが、2003年より18年にわたって提供しているサービスです。

本センターや京都大学からの大学教育に関する案内が全国の関係者に配信されるとともに、登録ユーザーからも各種イベント等の案内が配信されるので、今どのような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかという動向を把握することができます。

このサービスは長らく大学生協事業連合に委託してきましたが、生協が2019年度いっぱいまで本事業を終了することになり、2019年9月より、メール配信サービスblastmailを使ってサービスを継続しています。なお、旧システムのアーカイブは、センターのウェブサイト(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/>)からダウンロードできます。

2021年1月現在で、ユーザー登録数は6,700名(2015年3,429名、2016年4,192名、2017年4,836名、2018年5,395名、2019年5,952名)、投稿・配信数は1,160件(2015年621件、2016年944件、2017年975件、2018年1,270件、2019年1,119件)で、投稿・配信数、ユーザー登録数ともに増加しました。コロナ禍において、大学教育に関する関心が一層高まり、多くの大学関係者がオンライン授業の方法や新しい教育のあり方を模索した一年だったことがうかがわれます。

●あさがおメーリングリスト：<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/>

2. 大学教育研究フォーラム

大学教育研究フォーラムは、本センターが1994年の設立以来開催してきた、大学教育改革や改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2020年度で第27回を迎えます。

大学教育研究フォーラムは、①特別講演(招待講演)、②シンポジウム、③個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)、④参加者企画セッション、を基本プログラムとしており、年によって小さな追加・変更を行っています。

(1)第26回大学教育研究フォーラムの概要

2021年1月現在、2020年度のフォーラムはまだ開催されていませんので、ここでは2019年度の第26回大学教育研究フォーラムの実績をご報告します。

2019年度は、2020年3月18-19日に、以下のプログラムで開催しました(敬称略)。もともとは従来どおり対面で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況をふまえ、急遽、オンライン開催に変更しました。シンポジウム、個人研究発表、参加者企画セッションという予定していたプログラムは、それぞれ次のような形式で実施しました。

シンポジウムは、「2040年の社会と高等教育・大学を展望する」と題し、時計台ホールにてごく一部の関係者のみを集めて行われ、YouTube Liveで同時配信しました。パネルディスカッションの質疑応答では、オンラインで聴衆からの質問や意見を募り、双方向のディスカッションを実現することができました。個人研究発表は、発表資料や交流ツール(遠隔会議システム、動画共有サービス、SNS等)の情報を本フォーラムのWebサイトに掲載する形で行いました。参加者企画セッションは、Zoomミーティングを用いて、予定されていた時間帯に実施しました。参加者は490名でした。オンライン開催になったことでキャンセルもかなりありましたが、当時はまだ珍しかったオンライン開催での集会を無事終えることができました。



①特別講演「学術の展望と『大学』の未来」

山極 壽一（京都大学総長）

②講演「AIを活用した政策提言と高等教育の未来」

広井 良典（こころの未来研究センター副センター長・教授）

③パネルディスカッション「2040年の社会と高等教育・大学を展望する」

- ・山極 壽一（京都大学総長）
- ・広井 良典（こころの未来研究センター 副センター長・教授）
- ・高見 茂（京都光華女子大学学長）
- ・北野 正雄（京都大学教育担当理事・副学長）
- ・飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター センター長・教授）

④個人研究発表（口頭発表108件・ポスター発表89件、計197件）

※2015年度は174件、2016年度は195件、2017年度は186件、2018年度は232件

⑤参加者企画セッション（計7件） ※2015年度は11件、2016年度は14件、2017年度は14件、2018年度は13件

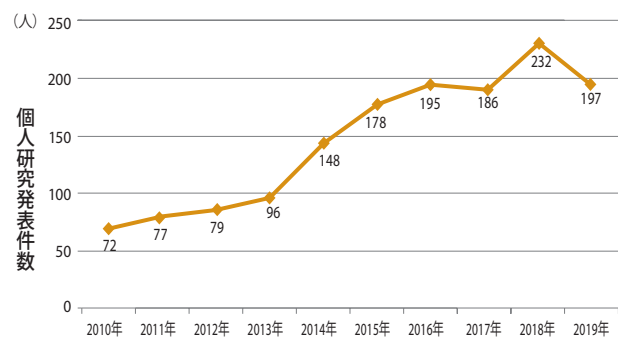
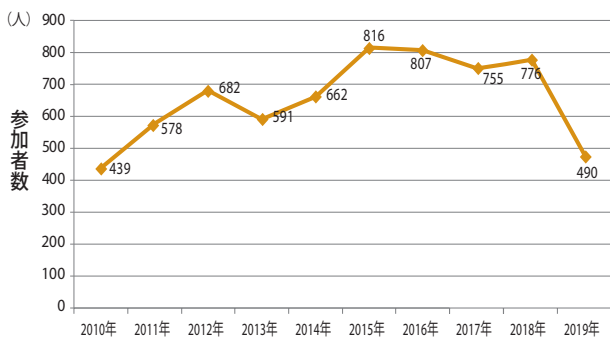
特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションとなっています。2019年度は「汎用的能力をどう育成するか」「探究的な学力を育てる高大接続をどう構想するか」「AI時代を担う教員の育成に求められる資質と育成法の考察」などが企画されました。

(2)成果と課題

2010年以来、フォーラムの個人研究発表件数はほぼ増加傾向にあります。2019年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、直前での開催方法の変更があり、若干の減少となりましたが、それでも2017年度よりは多くなっています。一方、参加者数は、2018年度から大幅に減少したものの、初めてのオンライン開催でありながら、490名もの方にご参加いただくことができ、実りの多いフォーラムとなりました。

主催者側では、毎年、事後アンケート結果にもとづき、プログラムや運営方法の改善を重ねてきていますが、さらに魅力的なフォーラムになるよう工夫したいと思います。

- 大学教育研究フォーラム：<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/>



参加者数・個人研究発表件数の推移(2010-2019年度)

(松下 佳代・原 裕美)